



1. 角川武蔵野ミュージアム
2. 角川武蔵野ミュージアム「本棚劇場」
3. 武蔵野坐令和神社

また、通信制高校（S高、N高）は当初の計画にはなく施設のオープン後に取り入れられた機能であるが、この柔軟な機能改編への取組みには、これまでにない魅力的な教育環境づくりが見て取れる。更に、

ところざわサクラタウン 概要

- 所在地 埼玉県所沢市東所沢和田3-31-3
- 建築主 ㈱KADOKAWA、公益財団法人角川文化振興財団
- 設計者 鹿島建設㈱、㈱隈研吾建築都市設計事務所、(有)種村強建築設計
- 施工者 鹿島建設㈱、白石建設㈱
- 竣工日 2020年4月30日

- 敷地面積 40,210㎡
- 建築面積 25,276㎡
- 延床面積 87,434㎡

- 階数 地上5階、地下2階、塔屋1階
- 構造 鉄骨造、鉄筋コンクリート造、鉄骨鉄筋コンクリート造



詳細や他の写真などは
左記の二次元コードから
Webページにアクセスしてご覧ください。

《日建連表彰2024 第65回BCS賞受賞作品》 石川県立図書館／エスコンフィールドHOKKAIDO／Otemachi One／OKI本庄工場H1棟／春日台センターセンター／京都東山計画（山荘 京大和・パーク ハイアット 京都）／高槻城公園芸術文化劇場／東京ミッドタウン八重洲／ところざわサクラタウン／那須塩原市図書館 みるる／福井県立一乗谷朝倉氏遺跡博物館／MIYASHITA PARK／明治大学創立140周年記念 和泉ラーニングスクエア／屋島山上交流拠点施設「やしまー」／読売テレビ新社屋



日建連表彰2024



第65回BCS賞

ところざわサクラタウン

選定理由

【選考委員】
稲山正弘・村松弘治・大西正修

昨今、様々なスタイルやアプローチで「まちづくり」が行われているが、そこにはとりわけ事業プログラムが重要視される時代背景がある。そのプログラムの本質は、住みやすいまち、訪れてみたいまちをつくり出すところにあり、人々のふれあいや、人が中心のウォークアブルな場所づくりが求められるため、多くの人々が計画にかかわることが不可欠になっている。

その点、ところざわサクラタウンは、多彩な人々がかかわり合いながら官民一体となった「COLJAPAN FOREST構想」に基づく「住んでみたい」「訪れてみたい」「まちづくりが実践されており、二二〇×一五〇の台地にあった浄水施設を、図書館、美術館、博物館、ギャラリー、ホール、商業施設、

オフィス、工場・物流施設、学校からなる多用途複合建築へ転換し、豊かなふれあいと賑わいの場をつくり出している。

この計画の優れたポイントは、豊かな自然とつながるパブリックスペースが常に開放され、多くの人々が自由に訪れることができるようになっており、誰もが訪れやすい場づくりを行ったこと、周辺の住宅地とのバランスに配慮した性能・機能を持った施設づくりを行ったこと、そしてニーズに応じてプログラムが柔軟に変化し続けているところにある。

まちの中には工場と物流施設がある。これは老朽化した工場の置き換えであるが、従来の印刷・物流システムとは異なり、オンデマンド印刷で本屋に迅速に届けるシステムを構築している。この取組みには、本屋とともに成長してきた産業を守り続ける発注者の強い決意が感じられる。

BCS賞

BCS賞は、建築の事業企画・計画・設計、施工、環境とともに、供用開始後1年以上にわたる建築物の運用・維持管理等を含めた総合評価に基づいて選考し、建築主・設計者・施工者の三者を表彰する建築賞です。この賞は、1960年にはじまり2024年で65回を数えました。